

I 私が見た甲子園

廣木 正倫 (S38年卒)

全国高等学校野球選手権大会全国大会は毎年8月に兵庫県西宮市にある阪神甲子園球場で開催される。野球というスポーツ、真夏に郷土の代表がトーナメント形式で戦うことから国民的な人気を保ってきている。



近年は野球留学と称される他県出身の選手を集め、野球強豪校とし、学校経営の具とすように見えてしまう学校の出場も多い。「高校野球大会」ではなく、「野球高校大会」ではないかとの声もある。識者の中には、「教育の一環であるならすべての学校にもっと多くの試合をさせるべきではないか。」「選手の健康を考えれば、盛夏に、しかも酷暑の関西以外の選択肢があるだろう。決勝戦がなぜ最も熱い時間帯なのか。」と語る人もいる。日本人の価値観というべきか、「過酷な環境の中、負ければ終わり」を変えることにはなりそうもない。甲子園は球児とその関係者、ファンにとって憧れの聖地であり続けている。

その甲子園に母校水戸一高が北関東代表として出場したのは私が小学校4年生の時だった。それから26年後、36歳の私は大阪に転勤し、球場の近くに3年に渡り住むことになった。

当時も甲子園球場はプロ野球の人気球団阪神タイ

ガースの本拠地でもあった。対巨人戦の観客の声援の音量は高校野球をはるかに凌ぐ。プロ野球では、3塁側アルプス以外はほぼ阪神応援で、鳴り物も音量優先である。当時自宅にいて「かつ飛ばせ掛布」が聞こえてきて打席に誰が居るかがわかった。町内会あてに球場から騒音のお詫びに寄付が届いていたと聞いていた。球場から自宅へはそのくらいの距離だった。

野球好きでも高校野球への思い入れはより強く、プロ野球よりも多くの高校野球の試合を観戦した。早朝球場出向いて入場券を購入し、自宅に戻って朝食を済ませ、試合開始前に球場に向かい、1日4試合、土日続けて8試合を観戦するのが常だった。

関西の夏の暑さは関東人には驚きだ。朝8時前から一日球場にいと、日向の時間、日陰の時間が交差する。地球が自転していることを実感する。大会期間のほぼ2週間の間に、日差しの強さや風の趣きの変化を、木立1本すらないコンクリートのスタンドでも感じたものだ。決勝戦の日には開幕の日とは違う空気がグラウンドを覆い、また大会の終わりが近いことから、秋が近いと感じた記憶がある。

数多く見た試合の中で、球場全体が他の試合とは全く違った試合二つを紹介する

1982年64回大会の大阪代表が大阪府立春日丘高校（前身は府立茨木女子高）だった。強豪校がひしめく大阪を勝ち抜いてきて、甲子園で1勝し、2回戦で関東の強豪校「法政二高」と対戦した。甲子園球場はそれまで見たことがない状況となった。



高校野球が開催されているときの球場の応援・歓声のボリュームは、実はプロ野球には及ばない。高校野球ではアルプススタンドのみが応援団、その他の席のファンは大声での声援は少なく暖かい拍手が主だ。応援団の懸命な声援とブラスバンド演奏のアルプス席とゲームの節目に湧く歓声と拍手の一般席の二重奏が素晴らしい。球場中から湧き起こる爽やかで温かい拍手に込められたファンの思いと敬意が甲子園を聖地にしている要因の一つと思う。

春日丘対法政二戦では1塁側アルプス以外は皆春日丘応援で、プロ野球を上回る声援が球場中から湧き上がった。1塁側内野席の私の周囲も皆がそれぞれ声を振り絞っての応援だった。大阪代表が府立の春日丘でなく強豪校であったらこうはならないだろうと思った。レフトスタンドには阪神の応援団かと思われるタイガーマスクが現れ、タイガースの大きな旗を振る者もいた。

大阪の人たちには「東京に負けるてたまるか」というマインドがある。その意味で法政二は恰好の相手、府立の高校が勝利すれば溜飲下がるところではない。球場ほぼ全体の猛烈な応援の甲斐もなく、春日丘が敗退した。球場を去る春日丘への球場中から湧き起こるひと際大きな拍手に、ファンの温かい心が伝わってきた。判官鼻根で、公立校、進学校、きびきびとマナーの良い学校への愛情に満ちた大きな拍手が銀傘にこだまするのを聞くと、これぞ甲子園ファンの心意気と思ったものだが、この試合の声援と拍手の迫力は忘れられない。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
春日丘	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
法政二	0	0	4	0	0	0	2	0	x	6

投手 春日丘:田宮 法政二:桜井

記録	打数	安打	打点	二塁打	三塁打	本塁打	三振	四死球	犠打	盗塁	犠塁	失策
春日丘	28	7	2	0	0	0	4	3	4	0	6	4
法政二	31	10	5	2	0	0	5	4	2	0	7	1

1999年平成11年第71回選抜高校野球大会決勝戦で水戸商業が沖縄尚学と対戦した試合の観客



阪神甲子園球場の外野スタンド下の『甲子園歴史館』

も特別だった。

関西圏には沖縄出身の方が多いこともあって、観客に沖縄関係の方々が多かった。真後ろの席の女性は話しぶりから、野球を殆ど知らない方で関西在住の沖縄の方が全員甲子園に駆けつけたかと思った。序盤水戸商業がリードした瞬間、鳥肌が立ち震えが来たが、結果は沖縄尚学の勝利。内外野に指笛が響き渡り、観客全員が勝利に酔いしれ、甲子園はあたかも沖縄県民大会の会場となった。高校野球は人々にこんなにも郷里の人々に歓喜と感動を運ぶのだと強く実感した。水戸商業の敗戦はとても残念だったが、心に熱いものが残った思い出がある。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
水戸商	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
沖縄尚学	0	2	0	0	2	1	2	0	x	7

投手 水戸商:三橋一安達 沖縄尚学:照屋 本塁打 沖縄尚学:浜田

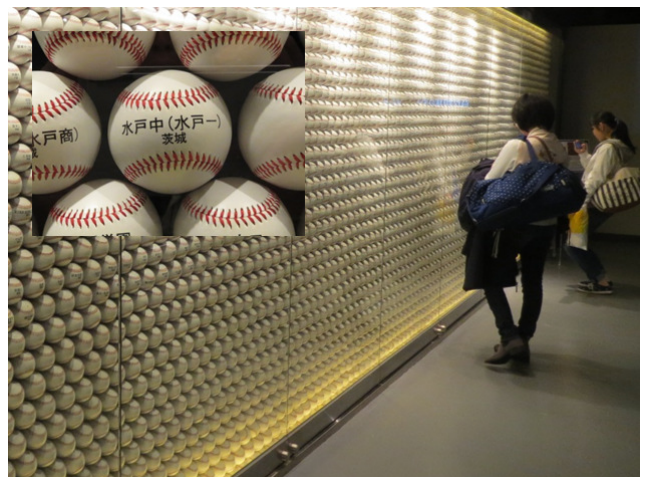
記録	打数	安打	打点	二塁打	三塁打	本塁打	三振	四死球	犠打	盗塁	犠塁	失策
水戸商	32	7	2	0	0	0	4	2	2	0	7	1
沖縄尚学	29	10	7	3	1	1	1	5	3	0	6	1

甲子園に数多く足を運んで、球場のファンは公立校、進学校の活躍を願っていると、また全国の高校野球ファンはそれに加えて郷土の学校の勝利を願っていると感じたものだ。

夏の大会は100回を数えるところまで歴史を積んできた。水戸一高が甲子園で活躍することによって、人々に甲子園大会以前からの日本の野球の歴史と飛田穂州先生の功績を思い起こさせ、高校野球が真に教育の一環として更なる発展を続ける未来への指針が語られることになると考えている。

野球の神様はわが校の登場の機会を何時にするか、そろそろその答えを出そうとしているに違いない。選手諸君にはその時に備えて研鑽を重ねて欲しい。技量を高めるに当たっては、支えてくれる人々への謝意を忘れず、わが母校の選手であることへの高い誇りと野球への深い敬意持つことが力の源泉になると確信している。

(連載第8回 最終回)



日本高等学校野球連盟の加盟校を表す4,253球の白球を並べた「ボールウォール」。出場経験のある学校については校名が記されている。



馬場 威彦 (H28年度硬式野球部父母会会長)

真夏の焼け付くような日差しの中、懸命に白球を追う選手達一人一人の熱い眼差し、そして直向きなプレーが走馬灯のように思い出されます。

「日々革命」というチームテーマを掲げ、昨年の8月には東北遠征において、仙台育英、花巻東、弘前、柏木農業と対戦させていただきました。強豪校選手のプレー以外にも、「自主性」や「心構え」などを直に感じる事ができ、同じ高校生として大変勉強になったと聞いております。

また、東日本大震災の爪痕がまだ残る東北の街並みを目にし、それぞれが心に思うこともあったことでしょう。

そして、今年の3月には岡山遠征において、岡山城東、津山工業、尽誠学園、高知商業、玉野光南、広、と名だたる高校と対戦させていただきました。結果は残せませんでしたが、県内での野球から飛び出し「規律ある集団行動」を学び、「他県の高校生との交流で知見を広める」といった「まだ知らない大海」を経験させていただいたことは、大変感謝しております。

公式戦におきましては、秋季大会、春季大会ともに代表決定戦で敗退し、県大会の切符を掴むことができませんでした。この悔しさが選手達を最後の大舞台、夏大の勝利へと一層奮い立たせたのだと思います。



迎えた夏の大会一回戦。相手は鹿島学園。強打の鹿島学園に追いつけ追い越せのシーソーゲームとなり、鹿島学園は九回表に4点追加、8対5と3点勝ち越しましたが、その裏に水戸一は4連打し3点追加、8対8の同点としました。延長十二回裏、水戸一は無死満塁とし、最後は岡田君が四球を選び8対9のサヨナラ勝ち。5時間3分という茨城大会史上、最長試合となりましたが、猛暑の中、投手陣、捕手陣はじめ選手達は本当に粘り頑張りました。私学に勝ち、日頃の努力がようやく実を結んだ一戦でした。

二回戦の筑波戦では、三回に川田君、田中君の連続三塁打と、内桶君の適時二塁打で2点先制。五回に逆転を許しましたが、蒲原君の左中間適時三塁打などで2点を返しました。結果は6対3と勝ちましたが、筑波は水戸一を上回る安打を放ちました。わずか10人のチームでしたが、元気がよくとても素晴らしいチームでした。

そして、三回戦はシード校のつくば秀英でした。秀英の先発、北山くんは、直球とスライダーがさえ八回途中まで被安打2で無失点の好投。水戸一は投手を攻略できず三塁を踏むことができませんでした。結果は0対5とシード校に敗れ水戸一の夏が終わりました。残念ながら、四回戦で霞ヶ浦と対戦し昨年のリベンジを果たすことはできませんでしたが、信頼する竹内監督、顧問の先生方、コーチ、そして苦楽を共にした仲間たちと、情熱を絶やさず「青春完全燃焼」ができたことは、かけがえのない財産となりました。

改めまして、先生方のご指導に大変感謝申し上げます。

また、日々の活動におきまして、物心共に支えていただいております後援会の皆様、温かいご声援本当にありがとうございました。



一回戦 平成29年7月10日(月)水戸市民球場
天候:晴
試合時間:5時間3分(9:59~15:02)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
鹿島学園	1	0	0	1	1	0	0	1	4	0	0	0	8
水戸一	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	1	9	

バッテリー:飛田(~4回)・幡谷(~7回1/3)・常井(~9回0/3)・飛田一栗原(~9回)・内桶
単塁打:幡谷3(1,4,10回)、蒲原2(4,9回)、栗原2(4,8回)、大賀(4回)、内桶2(5,9回)、田中(6回)、小柴(9回)、飛田(9回)、内野(12回)

- 出場メンバー
- 1番 センター 川田 (3年)
 - 10回レフト 幡谷 (3年)
 - 2番 サード 幡谷 (3年)
 - 5回ピッチャー 7回1/3レフト 9回サード センター 内桶 (3年)
 - 10回キャッチャー 飛田 (3年)
 - 5回サード 9回ピッチャー ファースト 小柴 (3年)
 - 10回セカンド 11回ファースト 蒲原 (1年)
 - ライト 栗原 (3年)
 - キャッチャー 加藤 (3年)
 - 9回代打 10回ファースト 11回セカンド 内野 (3年)
 - レフト 大賀 (3年)
 - 7回1/3ピッチャー 常井 (3年)
 - 9回レフト 岡田 (2年)
 - 9番 セカンド 田中 (3年)



二回戦 平成29年7月14日(金)水戸市民球場
天候:曇・晴
試合時間:2時間22分(9:58~12:20)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
筑波	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
水戸一	0	0	2	0	2	0	0	2	X	6

バッテリー:川田(~4回)・常井(~6回)・飛田一内桶(~6回)・栗原
三塁打:川田(3回)、田中(3回)、蒲原(5回)、渡辺(7回)
二塁打:内桶(3回)、川田(5回)、小柴(7回)
単塁打:渡辺(3回)、大賀(6回)、幡谷(7回)

- 出場メンバー
- 1番 ピッチャー 川田 (3年)
 - 5回センター 2番 セカンド 田中 (3年)
 - 3番 キャッチャー 内桶 (3年)
 - 7回ライト 4番 レフト 蒲原 (1年)
 - 5番 センター 岡田 (2年)
 - 5回ファースト 6回ファースト 小柴 (3年)
 - 6回ファースト 加藤 (3年)
 - 4回代打 大賀 (3年)
 - 5回ライト 7回ピッチャー 飛田 (3年)
 - ライト 香西 (3年)
 - 5回ピッチャー 常井 (3年)
 - 6回代打 栗原 (3年)
 - 7回キャッチャー ショート 渡辺 (2年)
 - 9番 サード 内野 (3年)
 - 5回代打 幡谷 (3年)
 - 6回サード



三回戦 平成29年7月18日(火)水戸市民球場
 天候:曇
 試合時間:1時間59分(9:51~11:50)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
つくば秀英	0	1	0	1	0	1	1	0	1	5
水戸一	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

バッテリー:飛田(~7回1/3)・常井(~8回)・飛田-栗原
 単塁打:飛田(2回)、栗原2(2、8回)、川田(9回)

出場メンバー
 1番 センター 内桶 (3年)
 9回ライト
 2番 サード 幡谷 (3年)
 7回1/3レフト
 9回サード
 3番 ファースト 小柴 (3年)
 4番 ライト 蒲原 (1年)
 9回レフト
 5番 ピッチャー 飛田 (3年)
 7回1/3サード
 9回ピッチャー
 6番 レフト 岡田 (2年)
 7回1/3ピッチャー 常井 (3年)
 8回代打 渡辺 (2年)
 9回ショート
 7番 キャッチャー 栗原 (3年)
 8番 セカンド 田中 (3年)
 9番 ショート 川田 (3年)
 9回センター



Ⅲ 平成29年度前半 活動報告

事務局長 森 利克

前会報第18号発行以降(3月~8月)の活動状況について報告します。

- 今年度の総会を去る6月11日(日)に知道会館で開催し、会員の皆様へ事前配布しました活動報告、会計報告を承認いただきました。また、田村幹事の退任(公務多忙のため)も承認されました。
- 会員拡充策の一環として、7月末に引退した3年生部員の父母会の皆様へ入会案内を配布しました。また、11月の東京地区知道会総会の場をお借りして本倶楽部の活動を紹介する予定です。
- 野球部支援として、会費から以下4件について支出しました。
 - ①3月の四国遠征費の一部
 - ②茨城大会必勝祈願玉串料(一部)
 - ③コーチ謝礼(水府倶楽部共同)
 - ④東北遠征(8/6~10)費の一部
 いずれも野球部(部長)または父母会からの要請に基づき、幹事会で審議承認されたものです。
- 公式戦応援では、春季地区大会代表決定戦で鹿島高に4-5で惜しくも敗れました。夏の茨城大会では一回戦で鹿島学園との延長12回、5時間以上の激戦を9-8で勝利し、二回戦で

は筑波高に5-3で勝利しましたが、三回戦で第15シードのつくば秀英高に0-5で敗れました。平日の試合にも拘らず、応援帽子を着用した多くの会員の皆様に応援いただきました。

- 2015年から運用を始めたホームページでは、会員限定で試合情報を「試合予定」及び「試合結果(詳報)」に載せています。8月20日(日)現在の総アクセス数は約91,400回です。「交流掲示板」も会員交流の場として活用ください。
- 本号(第19号)では先の茨城大会の様子を特集記事としてまとめてみました。父母会会長として部員の活躍を見守ってこられた馬場氏にも観戦記を寄稿いただきました。一方、最近では大学野球でも活躍するOB部員が増えていますので、シリーズ記事として徐々に紹介していきます。
 第一回目は立命館大学の外野手として最後のシーズンを迎える木村祐人君(平成25年卒)です。

三の丸倶楽部

顧問:稲葉節生(S38年卒 元茨城県教育長)
 会長:鬼澤邦夫(S38年卒 常陽銀行会長 知道会会長)
 事務局長:森 利克(S38年卒)
 幹事:照沼貞夫(S47年卒、H20年卒父母会) 池永充宏(H23、24年卒父母会)
 船橋信正(S63年卒、水府倶楽部)
 飯田芳久(H元年卒)



<http://sannomaru-club.com>

//////////////////////会員を募集しています//////////////////////
 対象:水府倶楽部(野球部OB会)及び現野球部父母会の会員以外どなたでも入会できます。
 特典:会員帽子(入会時)の配付、会報(年2回)の送付など
 年会費:一口 3,000円(何口でも可)
 手続き:氏名、住所、TEL番号、メールアドレスを下記までご連絡ください。
 連絡先:森利克 TEL/FAX 0294-53-1351 E-mail: ihm2158@ak.wakwak.com

これまで8回にわたって寄稿いただきました廣木氏（昭和38年卒）のシリーズ記事は本号をもって終了となります。小学生時代から水戸一高野球部を応援し、大学、社会人、プロ、MLBと国内外の多くの試合を観てこられた廣木氏ならではの幅広い見識と母校への深い愛着から生まれた記事内容は多くの会員、後輩部員、父母会の会会員、関係者の方々に感銘を与えてきました。4年間のご尽力に改めて感謝申し上げます。

さて、最近では大学でも野球に取り組む先輩が増えてきていますので、次のシリーズ記事として、彼らから後輩部員への応援メッセージをリレー方式でいただくことを企画しました。

東京六大学や関西学生野球では甲子園組が多く所属していて、リーグ戦出場はなかなか厳しい状況にありますが、そこで苦闘し、苦勞した人ほど社会人として強くなると期待します。一方、地方リーグでは学問と野球を両立させ、学生生活を楽しんでいる先輩がいます。

これら諸先輩たちから数回シリーズで後輩部員たちへの応援メッセージをいただきます。初回は平成25年卒で立命館大学4回（年）生の木村祐人さんです。彼は中学時代に有力な剣道選手として活躍しながら、高校から野球に取り組み始め、最後はキャプテンとしてチームをまとめる活躍をされました。6月には母校で教育実習を経験されました。

大学野球で学んだこと

立命館大学硬式野球部
木村祐人（平成25年卒）



高校時代、水戸一高野球部OBが神宮の舞台で活躍している姿を見たとき、すぐに進路を決めました。自分も神宮の舞台で活躍したい、もっと野球を追求したい、そう思いました。最後の夏の大会を終え、受験勉強に本腰を入れましたが、結果を出すことができず、浪人することになりました。浪人時代、ランニングやウエートトレーニングをしながら努力を重ねましたが、再び第一志望には嫌われてしまい、迷った挙句、立命館大学に進学することに決めました。

立命館大学野球部は、130名を超える大所帯で、当時は上下関係も厳しく、適応するのに時間がかかりました。4月に正式に入部してから、毎朝3時に起きてグラウンド整備や清掃をし、5時半から練習をするという生活が始まりました。

1年生の時は、雑用がほとんどで、自分の練習をする時間が限られていたため、授業が終わってから自主練習をして1年間のブランクを埋めようと必死でした。チャンスはほとんどなく、紅白戦を含めて打席に立てたのは、年間でたったの5打席でした。

大学で初めてヒットを打ったのは2月の春季キャンプで、その時は周りの人には普通の1本に見えていたかもしれませんが、自分では涙が出るほど嬉しかったことを覚えています。2年生になってもチャンスはごく僅かでしたが、たまたまチャンスを生か

すことができ、春・秋季新人戦のメンバーに入ることができ、いずれも優勝することができました。

秋はスタメンを勝ち取り、大学でもやっていけるという自信を持つことができました。しかし、3年生になると、肘・肩の故障で思うようなプレーができず、もがき苦しんでいるうちに1年が過ぎてゆき、ついに最終学年の4年生になってしまいました。春先からバッティングの調子が上がってききましたが、若手の台頭もあり、春季リーグ戦に出場することはできませんでした。この時期になると、ほとんどメンバーが固定されてしまうため、リーグ戦出場は厳しい状況にあります。秋季リーグ戦メンバー入りか絶望的な中で、高いモチベーションを持って練習に臨むのは容易なことではありません。

受験から始まり、今までたくさんの挫折を経験してきましたが、何度経験しても苦しいものです。しかし、このような経験をする事ができているのは、家族の支えはもちろんのこと、高校時代の監督のおかげでもあります。入部テストの時、監督は「強豪出身でない者は簡単に弾かれてしまう」からとわざわざ京都まで足を運んでくださり、大学の助監督に入部できるよう頼み込んで下さいました。このような経緯もあり、今、学生野球を続けることができます。

何度も大好きだった野球が嫌いになり、辞めたいと思うこともありました。しかし、様々な方の支えのおかげでなんとかここまで続けてこられました。そのご恩に結果で応えることは現状では難しい状況ですが、人生最後の学生野球をどんな形であれやりきりたいと思います。

最後に、三の丸倶楽部の皆様には常日頃からご支援・ご指導をいただき感謝しております。水戸一高野球部の名に恥じぬよう精進していきますので、応援よろしくお願ひします。

V 硬式野球部 名簿

(敬称略)

部長 小島 淳 監督 竹内 達郎 顧問 武士 敬一 太田 泰助

二年生



鈴木 健拓
那珂一中
内野手・主将



岡田 隆佑
勝田一中
内野手・副主将



金澤 正太
生瀬中
投手



関山 風野
水戸一中
外野手・内野手



武士 新一郎
東海南中
外野手



照井 貫太
水戸二中
捕手



廣江 敏也
大島中
外野手



松尾 俊吾
茨城大附属中
外野手



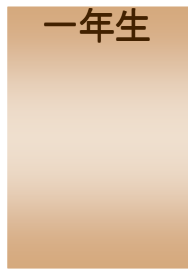
米川 亮輔
旭中
外野手



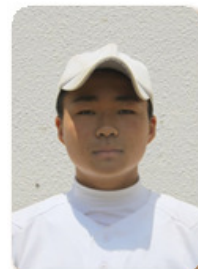
渡辺 勸太郎
石川中
内野手



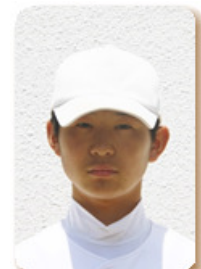
菅沢 和花
那珂湊中
マネージャー



雨谷 俊太郎
笠原中
内野手



飯村 颯太
茨城大附属中
投手・内野手



井坂 史周
笠原中
外野手



岡野 楽
笠原中
内野手



小椋 陽太
茨城大附属中
外野手



小沼 瞭太
千波中
捕手



片根 崇行
城里常北中
投手・外野手



蒲原 大稀
稲田中
外野手・投手



吉川 俊
水戸三中
投手・外野手



黒崎 宗矩
多賀中
内野手



橋爪 健宏
勝田二中
内野手



三浦 健太郎
平沢中
外野手

VI 試合結果・予定

平成29年度前半公式戦・準公式戦結果

月	日	大会	球場	結果
1月	2日	豚汁会	水戸一	●2-7水府倶楽部(8回終了)
4月	17日	春季地区代表決定戦	県営	●4-5鹿島
6月	3日	市内	水城	○21-0桜ノ牧常北(5回コールド)
	4日	"	"	●3-8水城
7月	10日	茨城大会一回戦	水戸市民	○9-8鹿島学園(延長12回)
	14日	" 二回戦	"	○6-3筑波
	18日	" 三回戦	"	●0-5つくば秀英
以下新チーム				
8月	19日	ジュニア一回戦	清真	●3-4鹿島
	21日	" 敗者復活戦	中央	○7-0波崎

平成29年度前半練習試合結果

月	日	場所	結果
3月	12日	波崎柳川	○9-8清真
			○10-4波崎柳川 7回終了
	18日	岡山城東	●3-9岡山城東 岡山県立
			●0-6津山工 "
	19日	高知商	●0-9尽誠学園 高知県立
			●0-18高知商 高知県立
	20日	玉野光南	●2-10玉野光南 7回終了
			●1-5広 広島県立
	23日	取手松陽	●2-9 取手松陽
			●7-13 "
	24日	きぬ総合運動公園	●0-4水海道一
			△6-6 "
	26日	水戸一	○9-5 新津 新潟県立
			○18-5 "
	28日	水戸市民	○4-2都留 山梨県立
			●5-6 "
	29日	笠間市民	○9-2弘前 8回終了
			●0-7佐久長聖 7回終了
4月	1日	水戸一	●1-10群馬中央中等 群馬県立
			●5-11勝田
	2日	水戸一	●4-9安積
			○7-5 "
	5日	石岡一	●2-5石岡一
			●2-7 " 5回終了
	23日	岩瀬日大	○3-1岩瀬日大
			○7-3 " 一年生主体
			○9-2 "
	29日	水戸農	○8-1 水戸農
			○18-10 "
			○7-6 " 7回終了
5月	3日	取手二	●2-3取手二
			●0-3 "
			△4-4 " 7回終了
	5日	水戸一	●2-4宇都宮 栃木県立
			●2-7 "
	6日	茨城高専	○6-1茨城高専
			△4-4 "
	7日	土浦一	●2-8 土浦一
			●1-11 " 5回終了
			○9-0 "
	14日	水戸一	●10-11緑岡
			●6-7 "
	15日	土浦湖北	●3-12土浦湖北 Aチーム
			●1-8 "
			●0-8 "
		水戸一	●7-13土浦湖北 Bチーム
			●1-7 "
	27日	明野	●8-10筑波
			○2-1 明野
	28日	つくば国際	●3-11つくば国際 Aチーム
			○6-3 "
		友部	●1-4連合 Bチーム
			○8-0 " [神栖・潮来]
			●1-6 " 友部・茨城東]
6月	11日	水戸一	○3-2佐原 千葉県立
			○2-1 "
	17日	土浦三	●0-1土浦三 Aチーム
			●1-4一ノ宮商
		大子清流	○6-2馬頭 Bチーム
			○3-2大子清流
	26日	鹿窪運動公園	○10-4佐野 栃木県立
7月	2日	牛久栄進	●1-2牛久栄進
			●4-8 "
			○11-5 "
		牛久	△1-1高橋清松
			●1-3牛久

新チーム 平成29年度前半練習試合結果

月	日	場所	結果
7月	29日	那珂湊	●0-4那珂湊
			○6-1 " 7回終了
	30日	明野	●0-1明野
			●2-4 "
8月	3日	水戸一	●6-7土浦二
			●2-11 "
	4日	笠間市民	○8-1綾瀬 神奈川県立
			△9-9 "
	9日	弘前	●4-14弘前 青森県立
			△6-6 柏木農 青森県立
	10日	弘前実業	●1-19弘前実業
			●2-5福島東 福島県立
	13日	水海道二	●2-6水海道二
			●3-9 "

平成29年度後半試合予定(平成29年8月20日現在)

月	日(曜)	大会・対戦校・会場等	(V:相手高G、H:水戸一G)
8月	27日(日)	練習試合 対鹿島(V)	
	29日(火)	練習試合 対牛久(V)	
9月	3日(日)	練習試合 対勝田工(V)	
	5日(火)	秋季大会水戸地区予選組合せ抽選会	
	8日(金)	秋季大会水戸地区予選(～9/13)	
	15日(金)	秋季県大会組合せ抽選会	
	21日(木)	秋季県大会(～10/1)	
10月	11日(水)	秋季関東大会組合せ抽選会	
	21日(土)	秋季関東大会(～10/25) 於神奈川県	
	28日(土)	水戸地区一年生大会(～10/31)	
11月		水商定期戦	
平成30年			
	1月	2日(火) 水府倶楽部定期戦/豚汁会(H)	
	3月	10日(土) 練習試合解禁日	

※試合予定は三の丸倶楽部ホームページでご確認ください。

編集後記